

旅を彩る匠の鞆

長い伝統や受け継がれてきた技術、決して揺るぐことのない強いこだわり。匠の職人たちが丹精込めて作り出す旅の鞆は、時を経てなお味わいを増す。大人の遊び心と洗練が詰まった、上質な旅へと誘う旅行鞆をご紹介します。



職人の技と美意識が生み出す、日本の矜持

AERO CONCEPT

ジュラルミンの質感とヌメ革のなめらかな手触り。細部にいたるまでとことん美しさを追求したそのプロダクトは、他では見られない特別な存在感と洗練された空気を纏っている。

数年前に突如として現れ、口コミだけで瞬く間に世界にその名を轟かせたエアロコンセプト。顧客にはモナコ公国やアブダビの王侯貴族たちをはじめ、ユマ・サーマンやジョージ・クルーニーといったハリウッドの名優たちが名を連ねる。また『ニューズ・ウィーク』では、世界が注目する日本の中小企業100社にも選ばれている。しかし不思議なことに、これほど人々に愛されるプロダクトであるにも関わらず、そのコンセプトは、世の中で良しとされている「便利」で「効率的」、そして「ラク」であるという価値観とは対極にある。エアロコンセプトの代表である菅野氏は、本来は飛行機や新幹線の部品だけをつくる板金加工職人であつ

た。しかしバブル崩壊の影響による倒産と再生を経験し、『これからは自分が欲しいと思うものを創ろう』と、仕事の合間を見つけては、自分だけのこだわりのプロダクトを作り始めたのだという。

たとえば写真好きの彼がこだわったのは、鞆を閉じるときの音。普通のバシヤツと鳴る音を、古いライカのバシヤツを切る「コトツ」という音にするために、半年から1年を費やした。周りから見たら理解できないことかもしれないが、菅野氏の価値観はそこにある。心地よい音やなめらかな手触り、長年使った角が剥げてきたときの味わい。または書類しか入らない薄い鞆や、ノートパソコンにジャストサイズのケースなど、使い方がごく限られているプロダクトたち。

「僕の作る鞆は、薄くて物があまり入らないから不便といえれば不便です。でも僕は、この鞆であつた

にだけ会いに来ました」と伝えたいんです。そのためには、不便なものではないと相手に伝わらないと思うんですよね。『いろんなところを回ってここに来ました』というのでは、想いは伝わらない。わざと不便であることも、僕にとっては大事な要素なんです」。

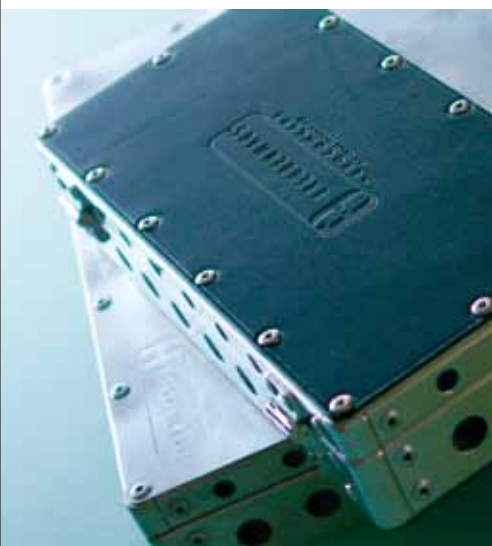
菅野氏にとっては、実用とか、便利さはどうでもよいこと。いかに気持ちや心を満たすプロダクトであるかが重要なのだ。

「もちろん便利さや合理的といった価値観も大切だと思います。でも心が豊かになるものとなると、ちょっと違うんじゃないかな。たとえば僕は蛍光灯が好きではありません。作業場には自然光が入るので、電気はほとんど点けません。太陽の光の中にいると、季節や時間の移ろいが感じられて、ほっとできたり、ほいもの早く作ろうと思ったりできるんです。僕にとってはそういうことがと

ても大事ななんです」。

そんな菅野氏が作る旅行用トランクには、特別な思いが込められている。それは、車輪をつけないということ。「車輪があれば確かに便利ですが、世界遺産のある街を、平気でゴロゴロと引きずって歩くのは私にはどうしても許せないのです。いくら荷物が高くても、そこは一人ひとりが気を使わなければいけない問題だと思う。実は車輪のオーダーはすごく多い。しかし、世の中が常識だといって、自分がこだわりをもってやっていることはお断りしていかないと、何のためにやり始めたのかわからなくなってしまうからね」。

便利さよりも不便さ。効率よく、ラクをするよりも相手への思いやりや気持ち優先する。エアロコンセプトのトランクは、そんな心持ちで携えてほしい名品であり、日本の職人の技術と美意識、そして矜持が詰まったかけがえのない逸品なのである。



上：航空機用ジュラルミンとイタリア製オイルヌメ革で作られたメガネケース。車の後部座席に無造作に転がっていても様になる。

中：バッグのハンドルは、ジュラルミンと革を縫いつける精緻な作業。そのためどんなに急いでやっても1日3個が限度だという。

下：エアロコンセプト代表 菅野敬一氏。これまでにルイ・ヴィトンやトヨタをはじめ様々なメーカーから提携の話があったが、ブランドのスタイルが崩れることを避けて一貫して独自の道を歩いている。

Information

株式会社エアロコンセプト
埼玉県川口市八幡木3-8-10
TEL 048-286-8800(工場)
www.aeroconcept.co.jp